



# けいせん

2015. 11. 30



2才の次男は、キリスト教保育の保育園に通っています。最近言葉が増え会話もそれなり? になってきたと同時に、保育園で教えていっている讃美歌を口ずかみ、聖句を唱えるようになりました。大きな汽車で遊びながら♪赤いりんご～黄色のバナナ～緑のメロン～紫ぶどう～神様おいしいくだものありがとう～とうとう姿に感動! おてての聖書を開きましょ、ハッ。「喜ぶ人と…(ゴニヨゴニヨ)…泣きない」と聖句を言う姿にまた感動!! 一日の終わりに一巻にお祈りする時間は、私にとって、とてもうれしいひとときです。

先日、彼が突然唱えた聖句!? 「求めなさい。そうすれば しゃがいもです」…? えっ? しゃがいも? 目の前には 確かにしゃがいもが。でも、私は求めてはいないけど…。その夜、(はりきってクリスマスツリーの飾りつけを終えた)長男が、ふとつぶやいた一言。「サンタさんってさ、才一希望のものはなかなか手当てしてくれんちゃんね。」そう。彼がこのところ一番にお願ひするゲームをサンタさんは届けてくれません。でも、クリスマスの朝、とび起きてプレゼントを見つけ、わくわくしながらあけてみると、それが求めているものと違ってとても喜んで、大さわぎ! そして、次の年になってクリスマスが近づくと、またドキドキしながら待つのです。

「そうね。サンタさんは子どものことをよく知っていて、その子には今はコレがいい、って決めてくれているのかもね。」そう言合しながら、私の中で息子たちのエピソードが湧き上がりました。神様は求めなさいと言われる。でも与えられるものは自分が求めたものではないかもしれない。その時にはどうして? と思うような出来事があるかもしれない。でも、サンタさん(私)もつと私(一人ひとりのこと)をご存知の神様は、私以上に今の私に必要なもの(こと)を知っていてくださり、与えてくださるので(エ)ないか。いや、もうすでに与えられていて、私が気づいていないだけかもしれない。

…それまで当たり前かと思っていた(というより意識すらしていなかった)ことが、大きな恵みであることをおもいます。そうやって思いめぐらせながら、あたたかい部屋でツリーを飾ることができた、これも恵まれた時間。神様に祈り、求め、感謝する。そして、それができぬをくださいと、また求めたいと思います。

さて、求めていなかった(つもりだった)けれど与えられたしゃがいもは、予定外のメニューでポテトグラタンになりました。いつもよりおいしくできたような…!!

『喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。』ローマの信徒への手紙 12章15節

『求めなさい。そうすれば、与えられる。』マタイによる福音書 7章7節